



『言葉への自覚』を高めるための

【言葉による見方・考え方を働かせる】

学び方を選択できるようにしましょう！

ここを大切に！

☑ 「選択する」ためには、「学び方」を知って、身に付けることが必要。

☑ 「学び方」を意識できるような価値付けや助言を行う。

☑ 学年の系統性に沿って、螺旋的に学びを積み重ねる。

実践例 小学校3年「モチモチの木」

語り手の「豆太ほどおくびょうなやつはない。」という文に、児童が着目した場面



「豆太」はどのような人物だと思いますか。

「豆太」は「おくびょう」な性格だと思います。
122ページの1行目に書いてあるからです。



「おくびょう」ってどういうことかな。これまで学習した「学び方」を使って、豆太がどのような人物かももう少し詳しく説明してみましょう。

選択した「学び方」をもとに説明を付け足していく

①辞書の意味

「辞書の意味」を調べたら、「おくびょう」は、「気が弱く、少しのことでもびくびくする」とありました。豆太の様子にぴったりな言葉だと思います。



②似た言葉との比較

付け足して、僕は似た言葉の「こわがり」と比べてみたけど、豆太はこわいと思うだけではなくて行動できなくなっているから、やっぱり豆太は「おくびょう」だと思います。



③別の言葉・文とつなげる

私も付け足して、「ぶるぶる、夜なんて考えただけでも、おしっこをもらしちまいそう」って文とつなげて、これが「おくびょう」な姿だと思います。



いろいろな「学び方」で、「おくびょう」という言葉の意味や働き、使い方を考えると「豆太」がどんな人物かより具体的に想像できますね。